

フェア
キュレーションを公平に拡張する vol.3

ゲストキュレーター

成相 肇 東京国立近代美術館主任研究員

(こどもの)

絵が70年

残ること

について

2025.2.4 |火| - 2.23 |日・祝| 12:00 - 20:00

MEDIA SHOP | gallery 会期中無休・入場無料

京都市中京区河原町三条下る一筋目東入大黒町44 VOXビル 1F

主催：文化庁、一般社団法人HAPS 制作：一般社団法人HAPS 協力：社会福祉法人 椎の木会、みずのき美術館

調査協力：一般財団法人たんぼの家、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ、ぬか つくるとこ

公立美術館のエコロジー：障害者等の文化芸術活動の可能性を拡張し、共生社会実現のための象徴空間のあり方を可視化する（文化庁委託事業「令和6年度 障害者等による文化芸術活動推進事業」）



HAPS
Higashiyama Artists Placement Service

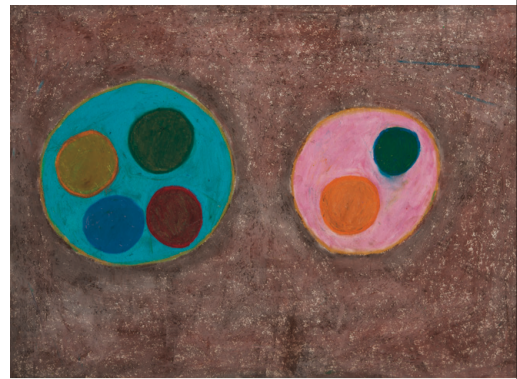




1



2



3

キュレーションをフェアに拡張する vol.3

(こどもの)絵が70年残ることについて

一般社団法人HAPSは、このたび「公立美術館のエコロジー：障害者等の文化芸術活動の可能性を拡張し、共生社会実現のための象徴空間のあり方を可視化する」の一環として、東京国立近代美術館主任研究員の成相肇氏をゲストキュレーターに招聘し、展覧会「(こどもの)絵が70年残ることについて」を開催いたします。昨年度に続き、障害のある人が関わる文化芸術活動を拡張する基盤をつくる本事業の先駆的な取り組みとして、気鋭のキュレーターとともに開かれたアートシーンの形成をめざします。

「障害とアート」という主題は、複数のサブジェクト——制作主体、支援（指導）主体、評価主体——の政治学的な結びつきによって構築されたひとつの制度です。この制度の特殊性は、第一に、この制度が制作主体の属性に規定されていること、第二に、支援主体と評価主体が依拠する価値の尺度において、制作主体と密接した福祉の評価と「アート」単独の評価の二軸が交差していることにあります。

「アール・ブリュット」「エイブル・アート」「セルフポート・アート」「障害者アート」等のそれぞれ部分的に重複しあう様々なカテゴリーの名称はいずれも、数あるアートをめぐる言説の中で例外的に、制作主体の属性の設定に主眼があります。何より、様々な名称が提案されるそのこと自体が、いま書いた特殊性に由来しています。

そしてこの特殊性ゆえに、残されてきた絵がある。

「障害とアート」という主題が掲げられるとき、その後半部、すなわち自明性の不確かな「アート」に視線が注がれることが常ですが、今回は前半部に力点を置きたいと思います。障害者を含む、誰もが必ず通過する「こども」に、いったん属性を置きなおしてみることが、この企画の趣旨です。

仮に、「こども」の表現が高く注目された1950年代から60年代に時代を絞ることにします。障害者支援施設「落穂寮」（滋賀県）と同「みずのき」（京都府）に残る絵とともに、同時代の「児童画」にまつわる資料を展示します。規模の小ささに見合わないかもしれませんが、ひとつの制度を脱構築する機会となれば幸いです。

成相 肇（東京国立近代美術館主任研究員）

関連トークイベント

日時：2025年2月9日(日) 15:00-16:30
会場：Frame in VOX
京都市中京区大黒町44 河原町VOXビル 3F
(展覧会会場と同じ建物の3階)
入場無料・要事前申込



お申し込み

登壇：

成相肇
奥山理子（みずのき美術館キュレーター、SW/ACディレクター）

MEDIA SHOP | gallery

京都市中京区河原町三条下一筋目東入の大黒町44
VOXビル 1F



お問合せ：一般社団法人HAPS
Eメール info@haps-kyoto.com / TEL 075-525-7525
(受付時間：火～土曜 11:00-17:00
イベント等の都合により変更する場合があります)

表. 小杉繁夫か《(花)》(部分) 1955年頃 クレヨン・紙 権の木会蔵
1. 高橋滋《木》1965年 オイルバステル、画用紙 みずのき美術館蔵
2. 吉川敏明《タイトルなし(何かの写生と思われる)》1965-1967年
オイルバステル(銀あり)、画用紙 みずのき美術館蔵
3. 二井貞信《無題》1966年 オイルバステル、画用紙 みずのき美術館蔵
4. 池田文雄《(牛)》(部分) 1955年頃 クレヨン・紙 権の木会蔵

4

